

第3章 庭月観音の歴史

第1節 庭月観音の歴史

第1 庭月観音とは

庭月観音は、山形県最上郡鮭川村にある天台宗の寺院で、正式には庭月山月蔵院という。ご本尊は聖観世音菩薩さまで、庭月観音という名称で親しまれている。

清流鮭川の河畔に位置し、最上三十三観音打ち止めの寺として、本堂の笈摺堂（おいずりどう）には、おびただしい数の笈摺や金剛杖が納められる。

また、やまがた出羽百観音（最上・庄内・置賜）結願の寺、山形十三仏八番聖観音霊場、山形百八地蔵第百番びんてんこ地蔵、新庄最上地廻三十三観音第二番霊場として名高く、満願成就の巡礼の寺として多くのご信者から驚きご信心を賜っている。

毎年、8月18日に開催している灯ろう流しは、かつては仏式で東日本随一と言われる規模を誇っていた。

その後は、人口減少・平成の豪雨災害・コロナ禍等の影響により、参拝者数は減少することとなったものの、現在は、開催形式を「万灯供養会」（境内に灯ろうを飾り灯す）に変更するとともに、寺院のライトアップイベント「天空明かりの夕べ」を同時開催しながら、時代に則した新しい布教活動に、尽力している。



庭月観音 観音堂



平成25年度 灯ろう流し



令和6年度 灯ろう流し万灯供養会

第2 庭月観音縁起と歴史

庭月観音縁起によると、ご本尊は一千有余年前の昔、比叡山延暦寺第3祖円仁慈覚大師の三礼行法のご尊体とされている。

ご本尊の誕生には、次のような伝記が残されている。

第59代宇多天皇の第9皇子敦実親王の後胤である六角判官時信郷の父親、頼綱郷は生来深い仏道信仰者で、ことに観音経普門品の読誦は夫婦の日課であった。

ところが奥方が病床に就き危うくなったある夜、形相瑞厳な僧が奥方の枕辺に立ち、

「自分は、比叡山四明獄の使者である」と名乗り、薬草を置いて立ち去った。

その薬草を用いると病は忽ち快癒した。不思議に思った時信郷が山奥深くに分け入ると、一条の光明の中に奉拝できたのが、聖観世音菩薩像であった。

この聖観世音菩薩像は、時信郷一族代々の尊崇するご本尊となり、羽州仙北郡への下向を経て、天文 4 年(1535)に鮭延城主となった佐々木貞綱公が城内に聖観音像を安置した。

その後、一族・庭月氏の進言もあり、天文 15 年(1546)に鮭川沿いのお堂を建立し、観音像を鎮座した。後年、周辺は横手の小野寺氏と大宝寺の武藤氏、山形の最上氏による戦乱が続き、何度も領主が変わり一時衰退した。

近世に入ると藩主である戸沢氏に崇敬され、寛文 11 年(1671)に現在地に遷座し延宝 4 年(1676)に観音堂が落成したのである。

現在のお堂は弘化年間に建てられたもので、境内にはその他におかげ様門や仁王門、巡礼堂、鐘楼、阿弥陀堂などがある。また、最上三十三観音巡礼の最後の札所となっているため、観音堂には、おびたしいお札が貼り付けられていて信仰の篤さがうかがえる。

また、観音堂に施された彫刻も見事で、特に蝦虹梁には 2 体の力士像が彫り込まれている。力士像は秋田県の中央から南部、山形県では北部に集中している寺社建築彫刻であり、鮭川村もその文化圏だった事がわかる。

第 3 庭月聖観世音菩薩立像（鮭川村指定有形民族文化財）

- 1 名 称：庭月観音聖観世音菩薩立像
- 2 時 代：平安時代(今から約千年前・慈覚大師円仁の一刀三礼の御作)
- 3 仏像様式：比叡山延暦寺横川中堂観音様式
- 4 詳 細 等：下記の通り

ご本尊は、みちのくのお大師様・慈覚大師円仁の一刀三礼の御作と伝わっている。平成 21 年にご信者さまのご支援のもと、ご本尊・聖観世音菩薩立像の大修繕に併せて、初の本格的な調査を実施した。

これにより、今まで約 500 年前に作られたと考えられていたご本尊は今から約 1000 年前もの昔に作成され、「比叡山延暦寺横川中堂聖観音の様式」を今に伝える全国的にも貴重な平安仏であることが判明した。

通常は秘仏として非公開であるが、12 年に一度のご開帳ではご信者の皆様に 1000 年の微笑みを与えてくれる。

皆様の篤きご信心とともに、未来永劫護持していく所存である。